

賞

おきりへ 文政元
宮内省
左大臣

おきりへ 文政二
宮内省
左大臣

おきりへ 文政三
宮内省
左大臣

おきりへ 文政四
宮内省
左大臣

おきりへ 文政五
宮内省
左大臣

おきりへ 文政六
宮内省
左大臣

おきりへ 文政七
宮内省
左大臣

おきりへ 文政八
宮内省
左大臣

おきりへ 文政九
宮内省
左大臣

おきりへ 文政十
宮内省
左大臣

おきりへ 文政十一
宮内省
左大臣

おきりへ 文政十二
宮内省
左大臣

おきりへ 文政十三
宮内省
左大臣

おきりへ 文政十四
宮内省
左大臣

おきりへ 文政十五
宮内省
左大臣

おきりへ 文政十六
宮内省
左大臣

おきりへ 文政十七
宮内省
左大臣

文政三
辰生

名曰知年
 張公

後方より

[illegible]

たみ賀より
文
己

張五弟分、子宜より張大
成を頼み、
のち大に

おみよりへに

非素人ノ人ナリナラバ
ノコニ年ハ終ル

文政又
千五百

全書
卷之二
書三
公法
書

香々々々々

新刊の
書入る

文政六
市書局

或云久々入るをりて清

孝文皇帝

新
書

文五
中五

此書乃
今抄
入
之
也

長安人の中

持寄入成り
張士

シ
新
書
人
女
臣
人
子

五十二卷

文政八
三月廿七日
子良

今之五言詩人又

石生月記

二月

石牌の書

一 石牌

武蔵野の遺跡 第三十三頁文

相定十年 東石牌の遺跡 第三十三頁文

其後十二年 分東石牌の遺跡 第三十三頁文

河内相定十年 東石牌の遺跡 第三十三頁文

甲子相定十年 東石牌の遺跡 第三十三頁文

相定十年 東石牌の遺跡 第三十三頁文

急増はるるを 東石牌の遺跡 第三十三頁文

河内法 東石牌の遺跡 第三十三頁文

相定十年 東石牌の遺跡 第三十三頁文

石 二月

井上石

石牌の書

石輝子類呈書

一 師門 松下持 武家要法市井文章
文政元寅三月 文政後年 年終 格賞文
相定面言 十九年 福百 東安 右 家傳別紙
今後 通御 六十年 余 請取 其後
十二年 余 言 拾五 實文 撰 僅是
仕得 共 相後 下 其 上 右 家傳 入 用 月
甲 月 後 松 早 也 每 然 今 得 共 一 系
相 每 是 中 今 其 任 其 於 松 方 數 年
轉 相 居 其 家 在 家 傳 明 後 是 中
甚 以 點 候 在 候 其 右 松 後 中 在 家 傳
下 松 相 對 其 志 持 仕 其 家 在 家 傳
其 上 輝 多 家 傳 中 山 井 公 傳 共 何 年 右
家 在 傳 中 明 後 行 又 家 傳 相 居 其 家
岩 海 相 後 是 松 中 年 在 家 傳 上 中 上

二月

村上景房

石

石は松方家傳

一 銀六拾七匁

三匁

村山重三郎

日

信家屋分七匁

八匁九匁

信家屋分七匁

信家屋分七匁

信家屋分七匁

信家屋分七匁

信家屋分七匁

ノ内取分七匁

残分七匁

日

上巻

信家屋分七匁

七匁

銀端



一、武蔵六面山月

新銀

村之屋

七、武蔵六面山月

新銀

八、武蔵六面山月

新銀

九、武蔵六面山月

新銀

十、武蔵六面山月

新銀

十一、武蔵六面山月

新銀

十二、武蔵六面山月

新銀

十三、武蔵六面山月

新銀

十四、武蔵六面山月

新銀

十五、武蔵六面山月

新銀

十六、武蔵六面山月

新銀

十七、武蔵六面山月

新銀

十八、武蔵六面山月

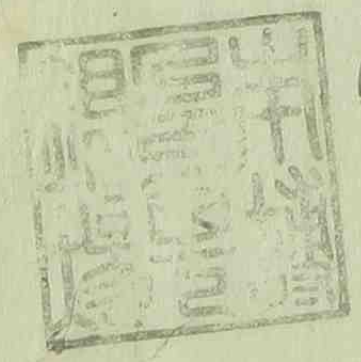
新銀

十九、武蔵六面山月

新銀

二十、武蔵六面山月

新銀



何世書

一山黄白八位月

今所行跡歌

方々山山のさうさうさう

黄白

七五五五五五五五五五

八位月

山山山山

山山

山山山山山山山山

山山山山

山山

山山山山山山山山山山

山山

山山山山山山山山

山山山山山山山山

山山山山

山山山山

山山山山山山山山

山山山山

山山山山山山山山

山山山山山山山山

山山山山山山山山

山山山山山山山山山山

山山山山山山山山山山

山山山山山山山山山山

山山山山山山山山

山山山山山山山山

山山山山山山山山山山

山山山山山山山山山山



五七月

一帳を世々へて置く 宣電并伝帳

くに

口

此帳を世々へて置く 五帳

此帳を世々へて置く 川系合

此帳を世々へて置く 振除契

此帳を世々へて置く 書取新代

此帳を世々へて置く 寺社分付

一六九九年

残 名目帳目書

但し宣電付帳を世々へて置く

は残る公なり

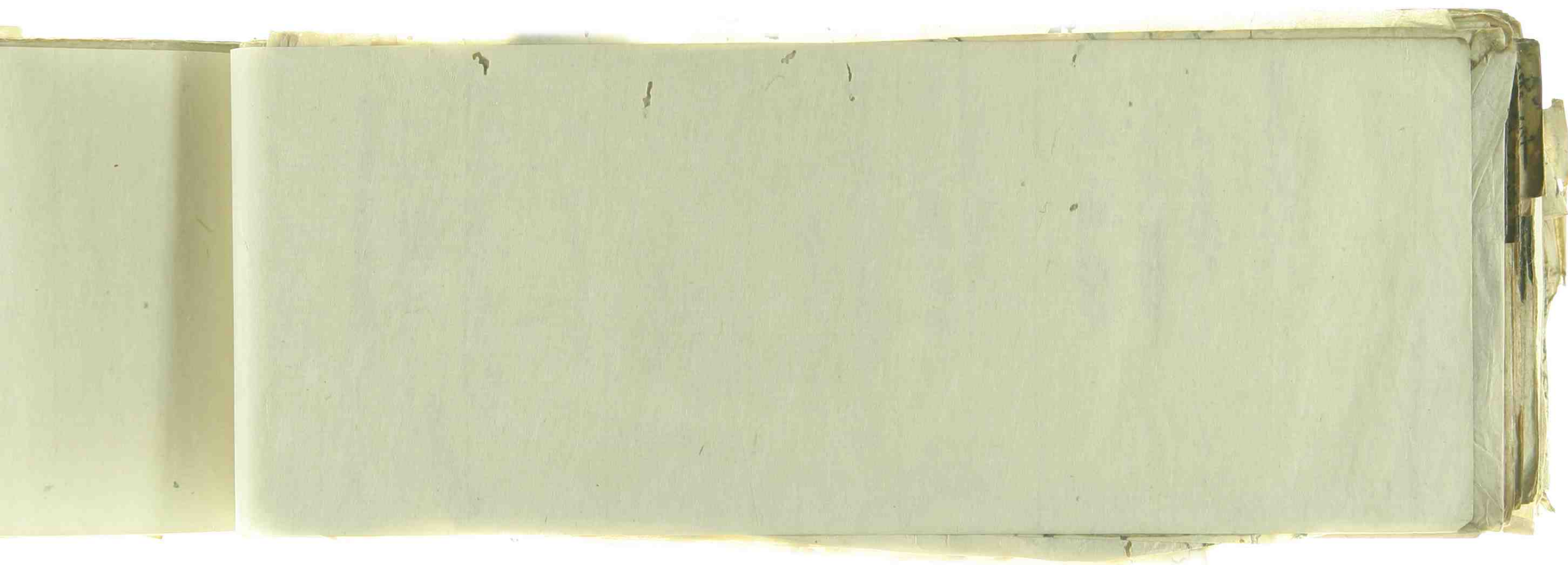
日

よりよ 通帳

は残る父の書

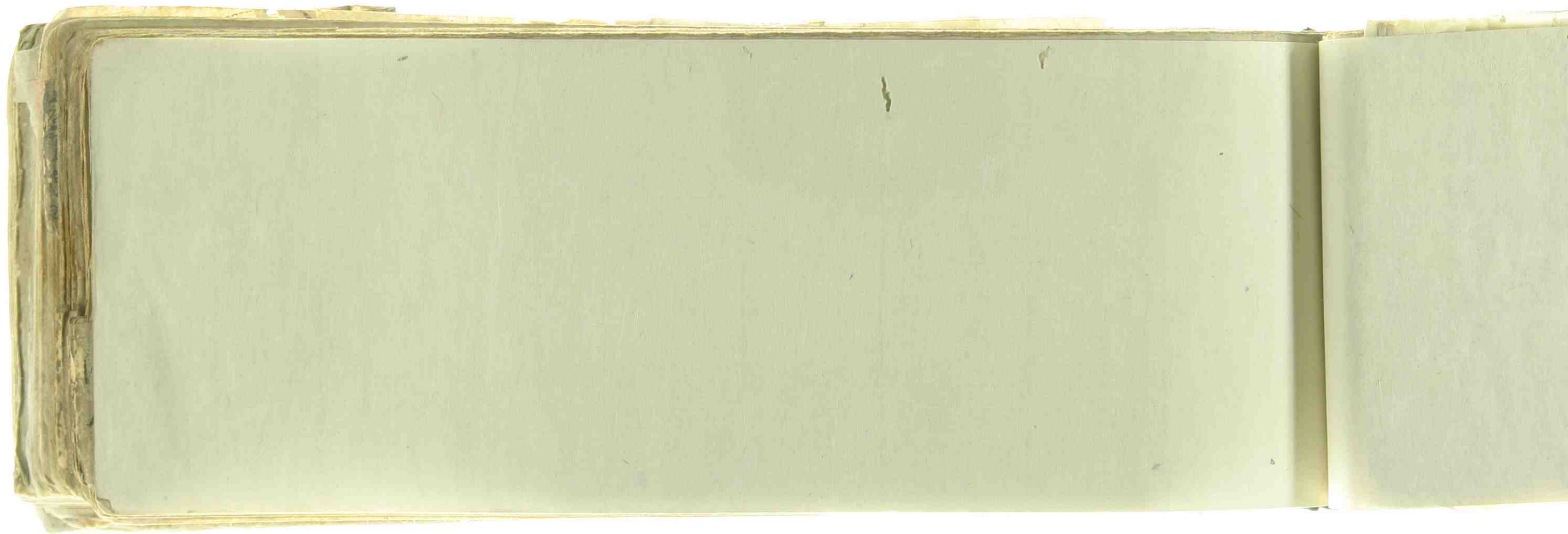
よりよ 書

よりよ 父



長崎大学附属図書館経済学部分館 武藤文庫所蔵



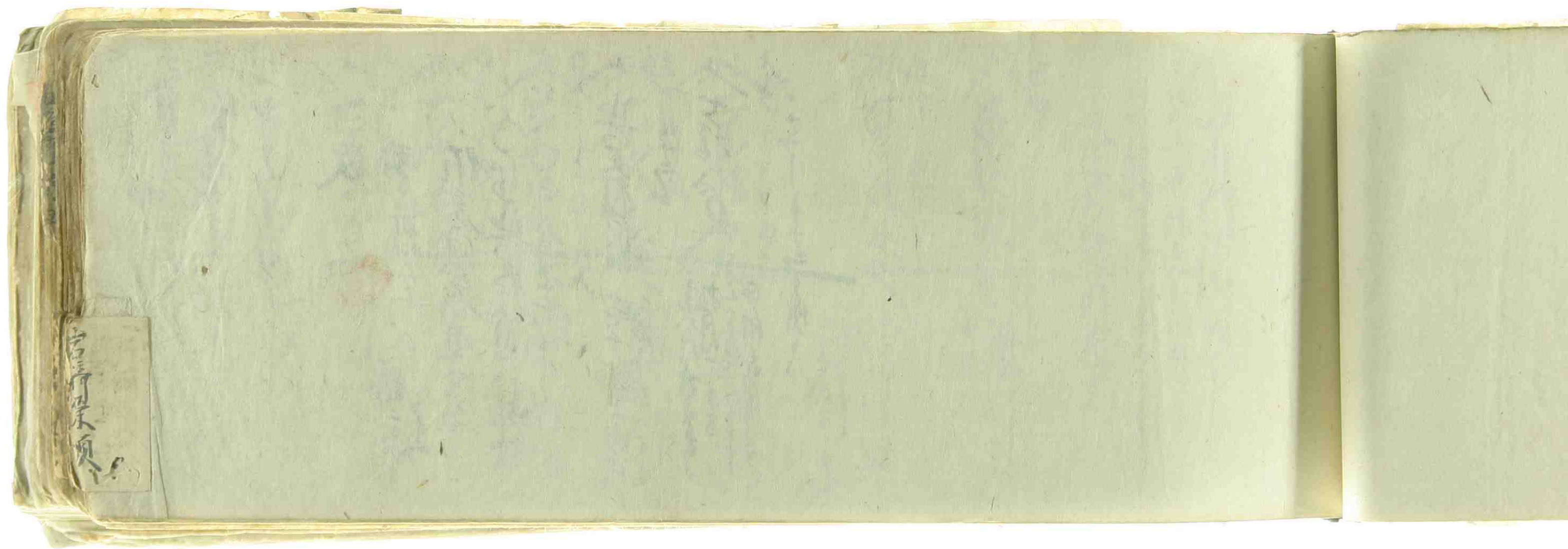


長崎大学附属図書館経済学部分館 武藤文庫所蔵





長崎大学附属図書館経済学部分館 武藤文庫所蔵



古書目録

岩崎宗久

三月五日
定九月朔日卯辰月六日
二面に接する
三月九日
三月十日
三月十一日
三月十二日
三月十三日
三月十四日
三月十五日
三月十六日
三月十七日
三月十八日
三月十九日
三月二十日
三月二十一日
三月二十二日
三月二十三日
三月二十四日
三月二十五日
三月二十六日
三月二十七日
三月二十八日
三月二十九日
三月三十日

改

甲子辰年三月五日

辰年三月五日

辰年三月五日

辰年三月五日

辰年三月五日

辰年三月五日

辰年三月五日

土府宗小頼也

文化八年 信天より可ぬる

年終り終月終り

年終り終月終り

入

入

入

入

入

入

入

入

入

入

入

入

入

入

入

入

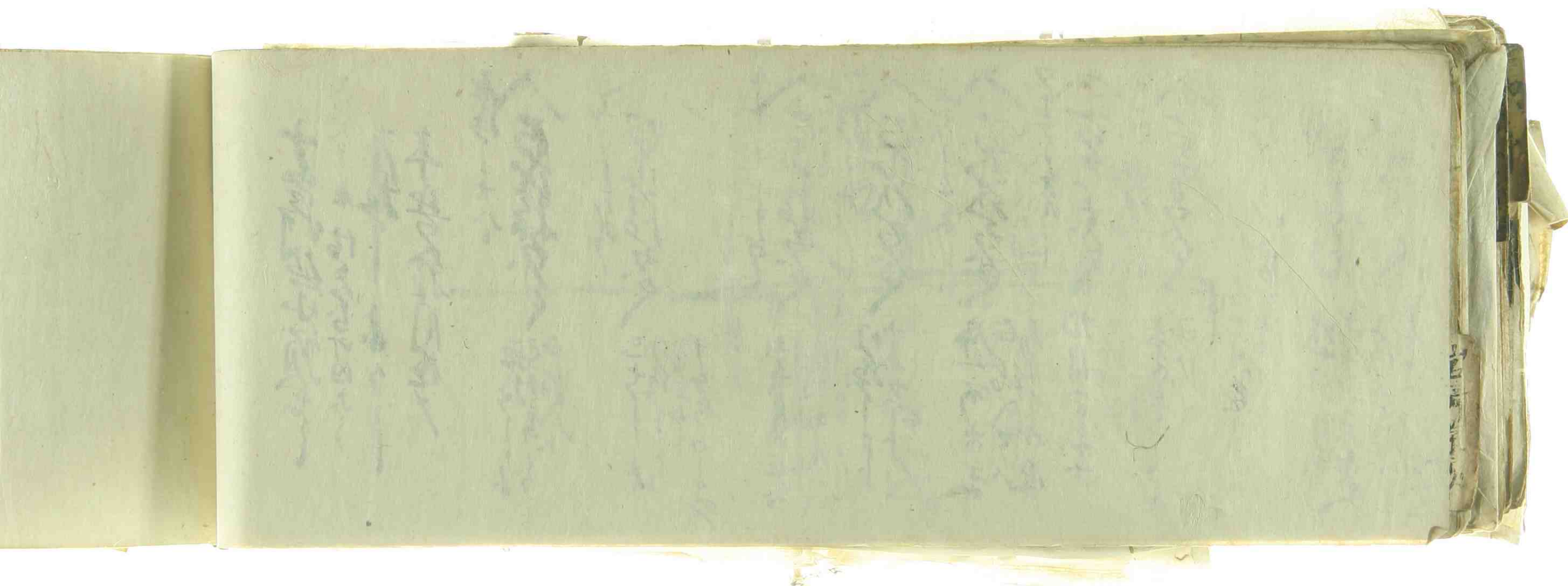
入

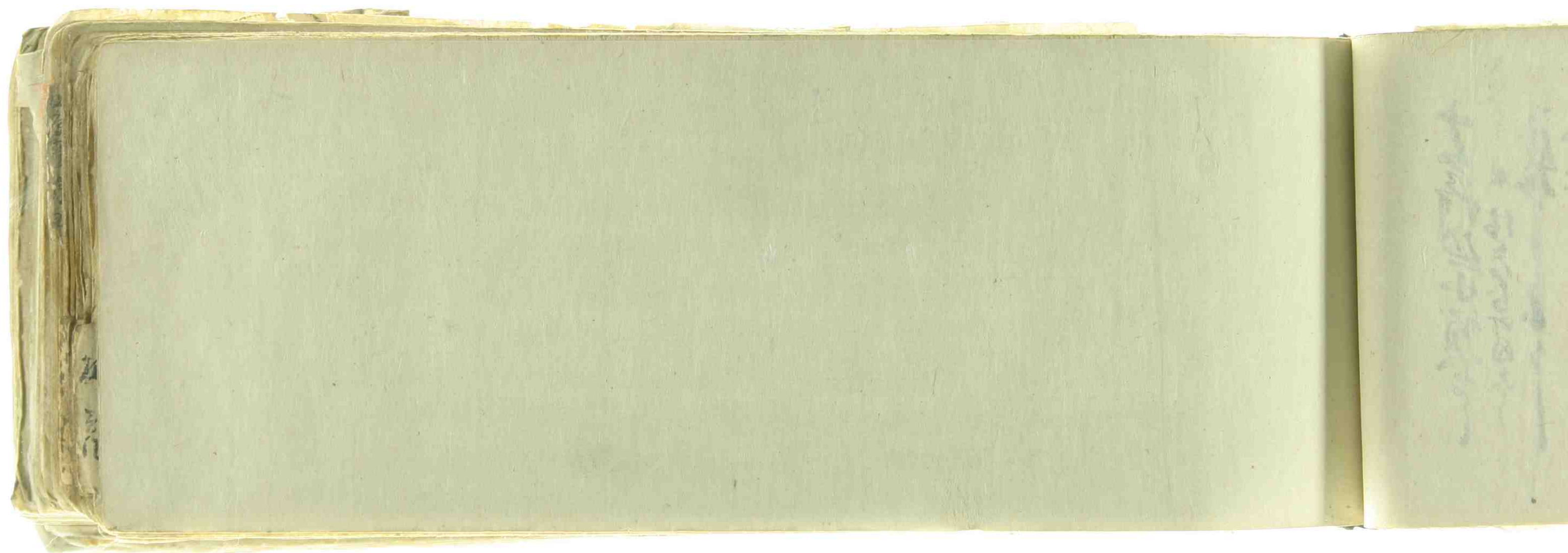
入

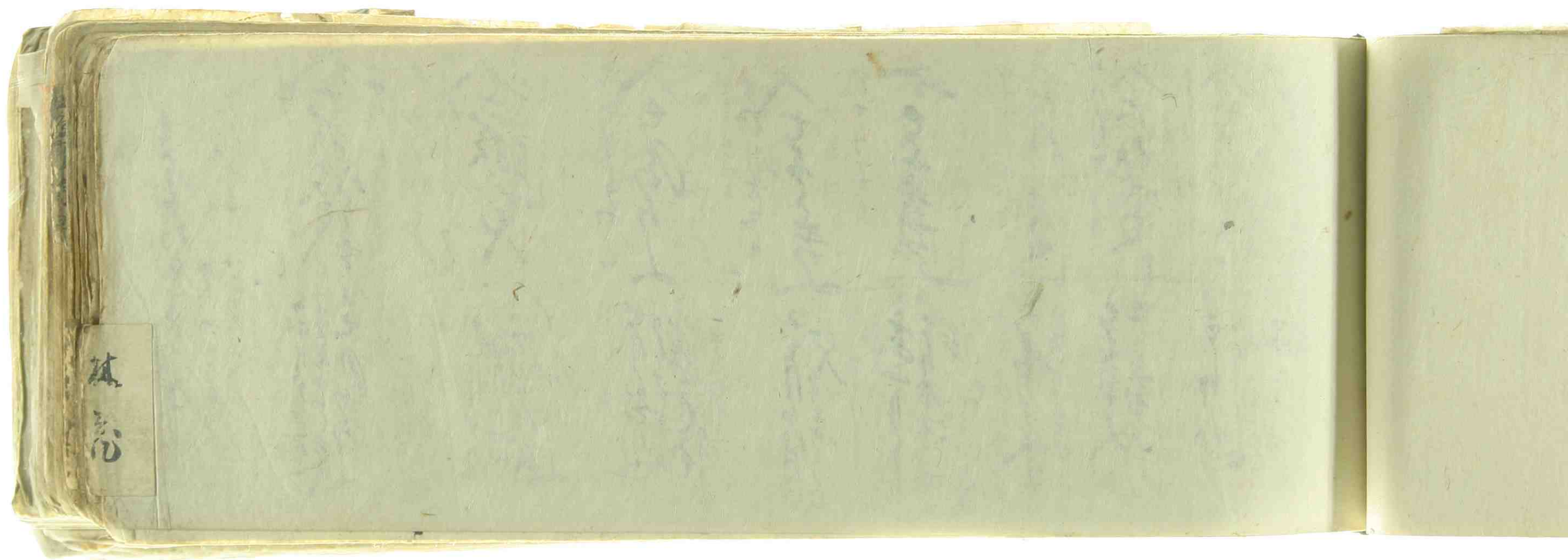
入

入

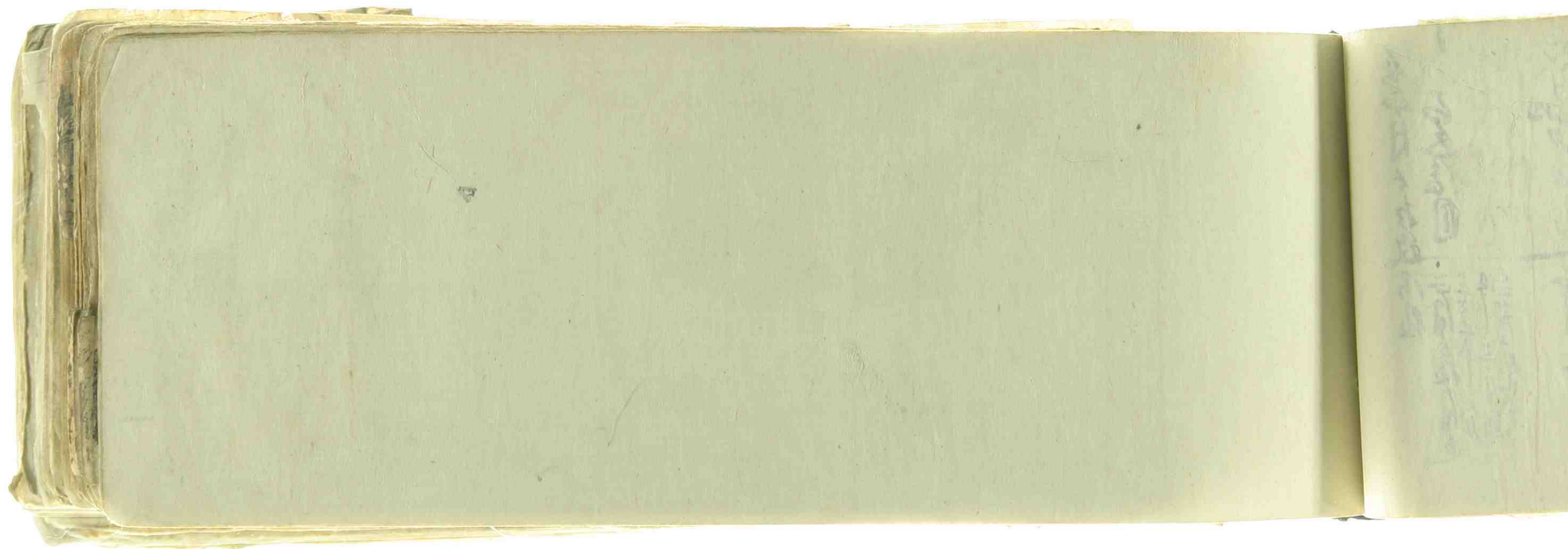
入

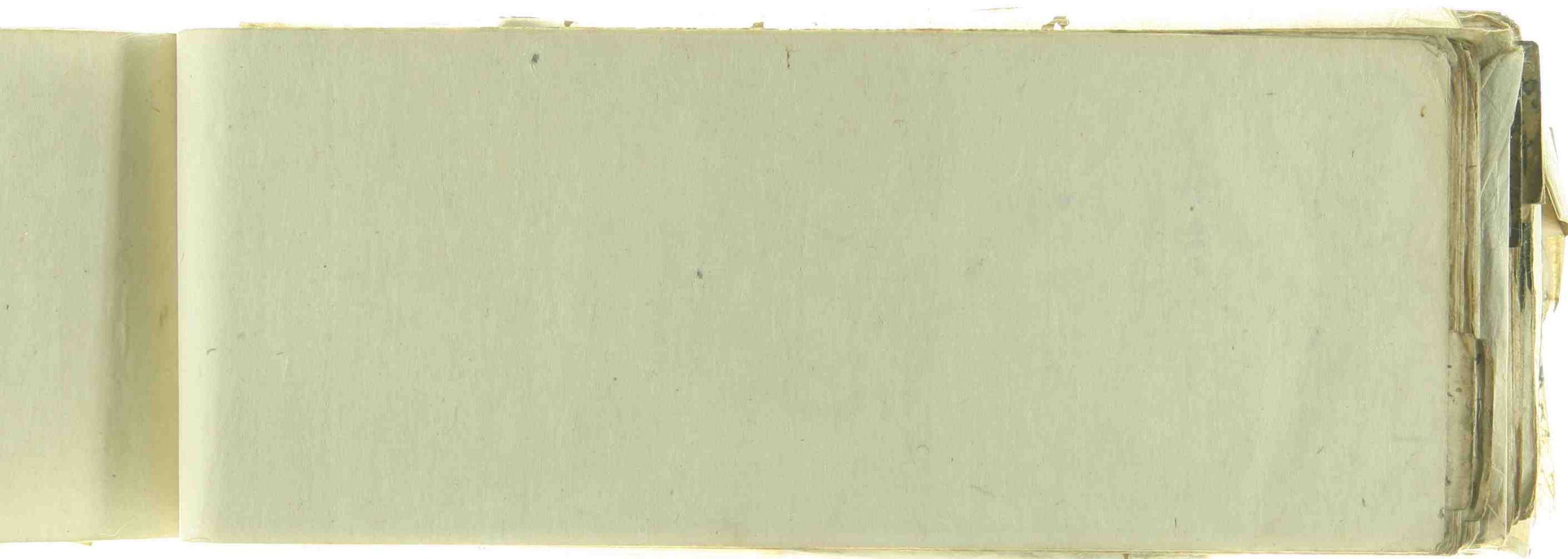




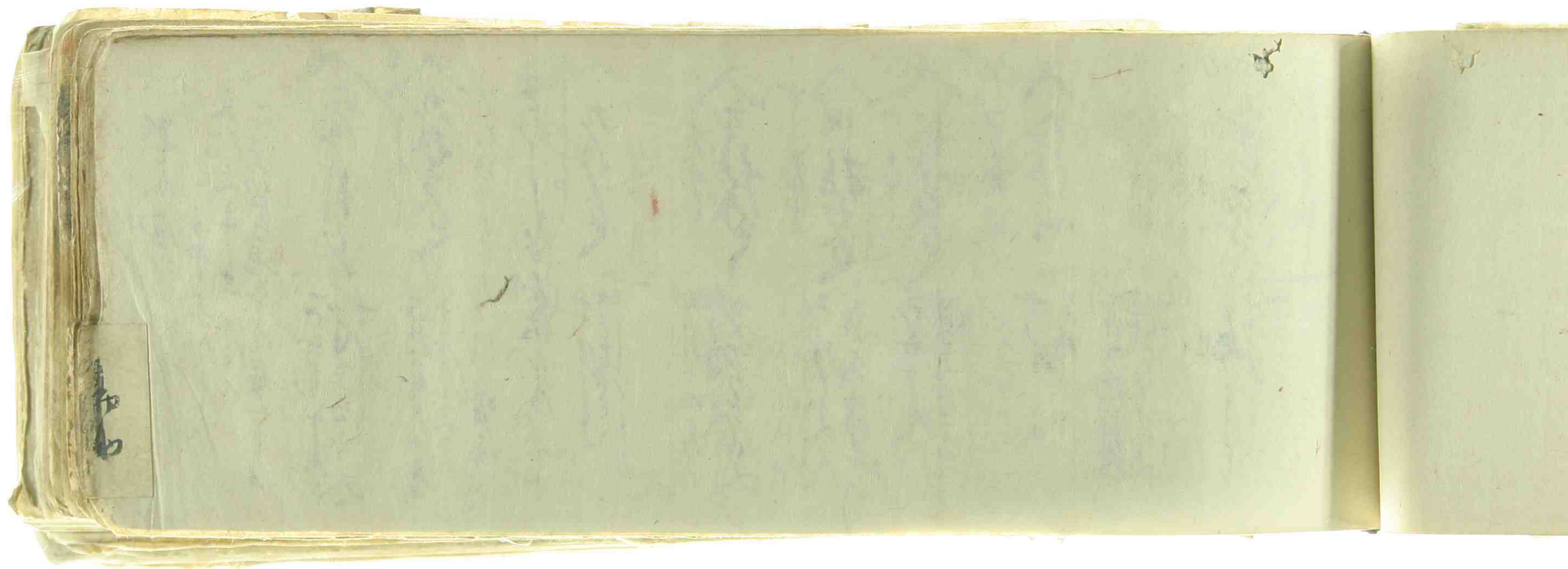


入
出





長崎大学附属図書館経済学部分館 武藤文庫所蔵



長崎大学附属図書館経済学部分館 武藤文庫所蔵



秋小座 元正

年九月

大化元年十月
石原田左衛門守重

入九月廿九日
子正し

入九月廿八日
子正し

入九月廿七日
子正し

入九月廿六日
子正し

入九月廿五日
子正し

入九月廿四日
子正し

入九月廿三日
子正し

入九月廿二日
子正し

入九月廿一日
子正し

入九月二十日
子正し

入九月十九日
子正し

入九月十八日
子正し

入九月十七日
子正し

九
お
さ
る
り
や
め
り
よ
う

お
り
が
ら
し
め
る
お
り
が
ら
し
め
る
お
り
が
ら
し
め
る

辰
三
月
の
改
元
の
時
辰
平
を
す
け
て
辰
三
月
と
す
る

辰
三
月
の
改
元
の
時
辰
平
を
す
け
て
辰
三
月
と
す
る

辰
三
月
の
改
元
の
時
辰
平
を
す
け
て
辰
三
月
と
す
る

辰
三
月
の
改
元
の
時
辰
平
を
す
け
て
辰
三
月
と
す
る

辰
三
月
の
改
元
の
時
辰
平
を
す
け
て
辰
三
月
と
す
る

右
と
す
る
明
き
し

吉
名
石

光緒

文化三十八年
一月廿四日

一
八
月
廿
四
日

廿
四
日
廿
四
日

廿
四
日
廿
四
日

廿
四
日
廿
四
日

廿
四
日
廿
四
日

廿
四
日
廿
四
日

一
月
廿
四
日

一
百
月

金
持
氏
家
下

五
十
月

七
月
一
日
入
金
持
氏
家
下

五
十
月

七
月
一
日
入
金
持
氏
家
下

一
百
月

金
持
氏
家
下

五
十
月

七
月
一
日
入
金
持
氏
家
下

五
十
月

七
月
一
日
入
金
持
氏
家
下

一
百
月

金
持
氏
家
下

五
十
月

七
月
一
日
入
金
持
氏
家
下

五
十
月

七
月
一
日
入
金
持
氏
家
下

二 霜月 清き月
此は霜月古き月なり
と云ふも
と云ふも

三 霜月 入

申十月大車しき
去新場より其後
素白なるに終る
改志にらるる
を後
不降

大化三子八月
一 霜月 入
中車
去新場より其後
素白なるに終る
改志にらるる
を後
不降

大化三子九月
一 霜月 入
中車
去新場より其後
素白なるに終る
改志にらるる
を後
不降

九 霜月 入
中車
去新場より其後
素白なるに終る
改志にらるる
を後
不降

霜月 入

一 霜月 入
中車
去新場より其後
素白なるに終る
改志にらるる
を後
不降

四 霜月 入
中車
去新場より其後
素白なるに終る
改志にらるる
を後
不降